

# 地域で支える障害者の自立

## 特

別支援学校などに通う障害者は卒業後授産施設に行く

ケースが多いようです。また、健常者が途中で障害者になった場合も一般企業にとどまることは少なく、障害者の就労環境は必ずしもよいとはいえません。

平成18年から「障害者自立支援法」が施行され、国も障害者の社会参加を促し始めた現在、どのようにして障害者の就労などを支援していくかが模索されています。今回の特集では独自の視点と工夫により、障害者の自立を支援している民間団体を紹介し、障害者支援の現状と今後の展望を探ります。

生まれてよかったと思える  
人生のために

社会福祉法人 共生シンフォニー

年商1億7000万円を記録

社会福祉法人共生シンフォニーが経営する「がんばカンパニー」は、琵琶湖のすぐそばにあります。瀟洒な住宅風の建物の中では、従業員が忙しそうにクッキー作りに動き回っています。

「おかげさまで、一昨年度は1億7000万円を記録し、福祉施設の作業所としては全国でも指折りの売り上げとなりました」と常務理事の中崎ひとみさんはこともなげに話します。しかしこの数字がいかに破格なものか、全国の同種の福祉作業所の売り上げが年間1200万円前後ということからもわかります。

その脅威の売り上げの秘密は、主力商品のオリ

ジナルブランド「がんばクッキー」です。原材料は世界中の無添加・無農薬や低農薬の素材を使用し、滋賀県内ではかなり知られた商品です。また全国の製菓業とタイアップして商品企画を行い、相手の希望に合った商品を開発するなど、独自の経営戦略も成功の要因です。こうした知恵の源は、親戚に企業経営者が多く、いろいろなアドバイスが受けられるという中崎さんの環境もありますが、やはり中崎さん自身の抜群の経営センスによるところが大きいといえるでしょう。

しかし最初から順風満帆というわけではありません。昭和61年に無認可の障害者小規模作業所としてスタートし、試行錯誤を重ねながら事業を展開してきました。そして平成8年に中崎さんが持っていたクッキーづくりのノウハウを活かしたクッキー工房を設立することで、事業は大きく伸びだしたのです。

最低賃金をクリア

平成15年には社会福祉法人の法人格を取得し、

表1 障害福祉サービスに係る自立支援給付等の体系

居宅介護（ホームヘルプ）	自宅で、入浴、排せつ、食事の介護等を行います	介護給付
重度訪問介護	重度の肢体不自由者で常に介護を必要とする人に、自宅で、入浴、排せつ、食事の介護、外出時における移動支援などを総合的に行います	
行動援護	自己判断能力が制限されている人が行動するときに、危険を回避するために必要な支援、外出支援を行います	
重度障害者等包括支援	介護の必要性が非常に高い人に、居宅介護等複数のサービスを包括的にを行います	
児童デイサービス	障害児に、日常生活における基本的な動作の指導、集団生活への適応訓練等を行います	
短期入所（ショートステイ）	自宅で介護する人が病気の場合などに、短期間、夜間も含め施設で、入浴、排せつ、食事の介護等を行います	
療養介護	医療と常時介護を必要とする人に、医療機関で機能訓練、療養上の管理、看護、介護及び日常生活の世話をを行います	
生活介護	常に介護を必要とする人に、昼間、入浴、排せつ、食事の介護等を行うとともに、創作的活動又は生産活動の機会を提供します	
障害者支援施設での夜間ケア等（施設入所支援）	施設に入所する人に、夜間や休日、入浴、排せつ、食事の介護等を行います	
共同生活介護（ケアホーム）	夜間や休日、共同生活を行う住居で、入浴、排せつ、食事の介護等を行います	
自立訓練（機能訓練・生活訓練）	自立した日常生活又は社会生活ができるよう、一定期間、身体機能又は生活能力の向上のために必要な訓練を行います	訓練等給付
就労移行支援	一般企業等への就労を希望する人に、一定期間、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います	
就労継続支援（A型＝雇用型、B型）	一般企業等での就労が困難な人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います	
共同生活援助（グループホーム）	夜間や休日、共同生活を行う住居で、相談や日常生活上の援助を行います	
移動支援	円滑に外出できるよう、移動を支援します	地域生活支援事業
地域活動支援センター	創作的活動又は生産活動の機会の提供、社会との交流等を行う施設です	
福祉ホーム	住居を必要としている人に、低額な料金を、居室等を提供するとともに、日常生活に必要な支援を行います	



クッキー作り工場は、連日大忙しです。

ですが、がんばカンパニーでは全利用者が最低賃金をクリアしており、同種の施設よりはるかに高い工賃（賃金のこと）を実現しています。

平成20年（2008年）に「就労継続支援A型施設」に移行し、障害者の就労支援の新たな展開を迎えました。

就労継続支援A型施設というのは、この施設に通所してくる利用者と正式な雇用契約を結びます。簡単に言えば通常の会社の従業員と全く変わることはないということです。ただし、あくまで福祉施設で社会生活に溶け込むための訓練機関と位置づけられていますので、利用者は一定の利用料を支払っているところが少し違う点といえるでしょう。

現在施設には知的障害者を中心に30人の利用があります。1日の労働時間はその人の状態に合わせて4～8時間が設定され、勤務体系も多様化しています。通常、一定の障害がある場合は最低賃金が適用されず、非常に低い賃金で働いているケースが多いのですが、がんばカンパニーでは全利用者が最低賃金をクリアしており、同種の施設よりはるかに高い工賃（賃金のこと）を実現しています。

「安い人で3万円弱、高い人になると20万円を超えている人もいます。またうちは社会保険も完全適用させていますので、障害者の家族がうちに来ている方の被扶養者になっているケースも多いのです。大げさな言い方になりますが、家族を養う一家の大黒柱になっている人もいます」と中崎さんは利用者の状況を教えてくださいました。

授産施設の連絡組織「全国社会就労センター協議会」の調査によると、授産施設の月額工賃の全国平均は、約1万5500円ということですので、がんばカンパニーの待遇のよさがひとときわ目立ちます。

## 一般企業での就労が理想

がんばカンパニーには、障害者雇用支援機関、雇用支援センターなどの公的機関からの紹介で来所する人が多く、とくに公募することもなく常時満員状態ということで、平成21年には近くに新たな施設を増築する予定です。こうした状況を中崎さんは、「うちは知的障害者が多いのですが、施設で働くうちにどんな方向に変わっていくんですね。ですから一定のレベルに達した方は、普通の事業所に行くように勧めるのです



がんばカンパニーでは、様々な物産の卸も行っています。

設で働くうちにどんな方向に変わっていくんですね。ですから一定のレベルに達した方は、普通の事業所に行くように勧めるのです

が、居心地が いいのか(笑) 移行が進みません。本来はこうした施設が不要な社会の実現が理想です」と分析します。

なんらかの障害を持つ人は全人口の5%になるといわれます。障害者の概念が広い欧米では10%は障害者といわれます。ごく普通に社会には障害者が存在するように、就労の場でも同じ比率で障害者が存在し、それが当たり前の社会の実現が必要だと中崎さんは指摘します。しかしハードルが高いのも事実です。

「一般企業にいった人でも、数が少ないので孤立してしまうわけです。自分が浮いた存在というのが、なんとなくわかるんですね。通常の労働者とあまり変わらない賃金だとわかると、通常従業員が障害者につらく当たるといふ現実もあります



事務職としても障害者の方が働いています。



クッキーは袋詰めです。

す。またなげうちが製菓業界とタイアップして別ブランドクッキーを作るかというところ、障害者施設のクッキーだとわかると安くなってしまうからですね。まずはこうした偏見をなくすこと、そして障害者への地域住民の理解が重要です」と中崎さんは力説してくれました。

## 法整備も課題

実は障害者の就労ということでは、労働基準法などの労働法の問題が絡んできます。平成19年の2月、神戸東労働基準監督署が、神戸市内の作業所に対し立ち入り検査を行い、改善勧告した事件がありました。

この事件の争点は作業所で働いている人は訓練生なのか労働者なのかということです。監督署は作業実態から労働者にあたるとして、最低賃金法、社会保険を適用するなど、是正を求めたのです。

がんばカンパニーでも施設で働く人は訓練生なのか労働者なのか監督署とだいぶ協議をしたようで、結局は労働者ということで労働法上の求められている条件をすべてクリアしました。しかしがんばカンパニーのようにすべての施設で条件をクリアできるとは限らず、大半の施設は最低賃金法をクリアできるほどの収益力はなく、最低賃金や社会保険料を支払う義務が生じると運営は成り立ちません。

一方訓練生のままでは、最低賃金法も適用され

ず極端に低い工賃でも容認され、工賃アップの動機付け、言い換えれば自己努力も働きにくくなるという面もあり、障害者自立の妨げになります。

福祉的側面と労働者としての権利擁護を調和させた解決策が求められています。

「私たちが先行する形で事業に取り組んだ結果、行政もよく理解してくれるようになり、最近ではいろいろな自治体から視察に来られるようになりました。小さな力ですがこれからも率先していろいろなことに挑戦して、あとに続く方が出てくることを願っています。障害を持つ方が希望を持っている社会、ああ生まれてきてよかった。世の中つらいことばかりじゃないんだと思えるような社会を実現したいですね」と中崎さん。



大津市の住宅地の一角に佇むがんばカンパニー。

滋賀県大津市のアパートの一室で細々と始めた事業が、いまや全国的な広がりを見せているがんばカンパニーは、これからの障害者施設の一つのモデルとなるといえるでしょう。

## DATA

### 社会福祉法人共生シンフォニー

〒520-2144

滋賀県大津市大萱5-6-8

TEL. 077-543-2766

FAX. 077-543-2651

URL <http://www.gambatta.net/>

## 住まいの確保は 社会参加への第一歩

### 特定非営利活動法人 みやぎこうでねいと

## 工賃アップ運動がきっかけ

「特定非営利活動法人みやぎこうでねいと」理事長、齋藤宏直さんの本業は消臭剤会社の経営者です。商品のラベル貼りなどの外注先を探していたところ、知り合いから障害者の施設に仕事を出すと安くやってくれるという情報を得て、授産施設に発注したのが齋藤さんと障害者との出会いでした。

「平成9年頃だったでしょうか、いいところを紹介していただいたと思って一安心でした。あるときその施設で働いている人に、給料はどのくらいもらっているのか聞いたところ、『3000円』と答えるんですね。最初は日給かと思ったらそれが月給だったのです」

あまりに安い賃金に大きな衝撃を受けた齋藤さんはこれでは障害者は自立できないと思い、彼らの稼働能力を上げるため障害者施設に積極的に仕事を発注して仕事を増やす工賃アップ運動を始めました。

その後、県内外の多くの施設に仕事上の関係を

持つと同時にいわゆる三障害の利用者の環境と施設の現状に触れ、民間にできる障害者の自立



特定非営利活動法人  
みやぎこうでねいと  
理事長 齋藤宏直さん

支援を行おうと企業経営者を中心とした「特定非営利活動法人みやぎこうでねいと」を平成14年に設立し、障害者の総合サポートに乗り出しました。現在は、民間企業の紹介を中心とした交流支援事業、障害者に仕事をする上での心構えをレクチャーする就労ガイダンスを中心に事業を展開しています。

## 障害者には大きい住居問題

そして現在最も力を入れているのが住まいの支援事業です。齋藤さんは就労支援を続けているうちに、特別支援学校などを卒業した障害者の住むところが意外に少ないことに気がつきます。

自立支援法は従来の施設での療育から、地域で生活を行いさらに発展させて就労を支援し、障害者の自立を促すことに軸足を置いています。しかし大きな役割を担われた市町村では、取り組みに温度差があることは否めず、特に障害者自立支援法にある「住宅入居等支援事業」に立ち遅れが目立ちました。

齋藤さんは平成15年の11月に不動産広報誌「ミ

**「入居サポートセンター」 住宅情報相談シート**  
 FAX : 022-268-0502

事業主体：NPO法人 みやぎこうでねいと  
 独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」助成事業

申し込み日： 年 月 日

入居希望者氏名 (ふりがな)	連絡先 (TEL)	職業	年齢
( )	( )		
住所 〒 -			
* 障害内容 ( ) * 手帳番号 ( ) * 特記事項 ( )			
* 最近履歴			
* 所得状況 給 与 ・ あり (年収 円) ・ なし ・ 事業年収 円 生保適用： あり ・ なし 年金： 国民 厚生 共済 ・ その他 ( ) 年額 円 課税状況： 住民税 (課税 ・ 非課税) 所得税 (課税 ・ 非課税) その他			
* 入居希望内容			
・ 地 区： ( ) ・ 交 通： ( ) ・ 間 取： 1K ・ 2DK ・ 3DK ・ その他 ( ) ・ 希望家賃： 3万円未満 ・ 4万円未満 ・ 5万円未満 ・ その他 ( ) ・ 同居者の有無： あり ・ 関係 ( ) ・ なし ・ 保証人予定： あり ・ 関係 ( ) ・ なし ・ 入居希望年月日： 平成 年 月 日 ・ バリアフリーリフォーム： 必要 ・ 内容 ( ) ・ 不必要 ・ その他入居に関する希望			
* 支援機関など (緊急および対応要請時の連絡先) 必ず2箇所記載			
名 称・氏 名	所 在 地	電 話	関 係

図1 相談シートで入居者情報を取得します。

また平成20年度からは賃貸物件を紹介するだけでなく、障害者用のアパート経営にも乗り出しました。

図2のようになります。

また平成20年度からは賃貸物件を紹介するだけでなく、障害者用のアパート経営にも乗り出しました。

「とは言うものの不動産屋さんの段階ではOKが出て、いざ大家さんとの交渉になると皆さん尻込みするわけです。他の入居者と問題を起さなつかい、本当に支払い能力はあるのかと心配の種はつきません。そこでわれわれの出番となるわけです」と齋藤さん。「みやぎこうでねいと」が仲立ちすることで、大家さんの懸念を払拭する機能を果たします。

この事業は大きな評判となり、平成16年度の独立行政法人福祉医療機構(WAM)の高齢者・障害者福祉基金「特別分」の助成事業となりました。さらに平成17年度には宮城県の障害者賃貸住宅入居支援事業の認定を受け、仙台市から宮城県全体

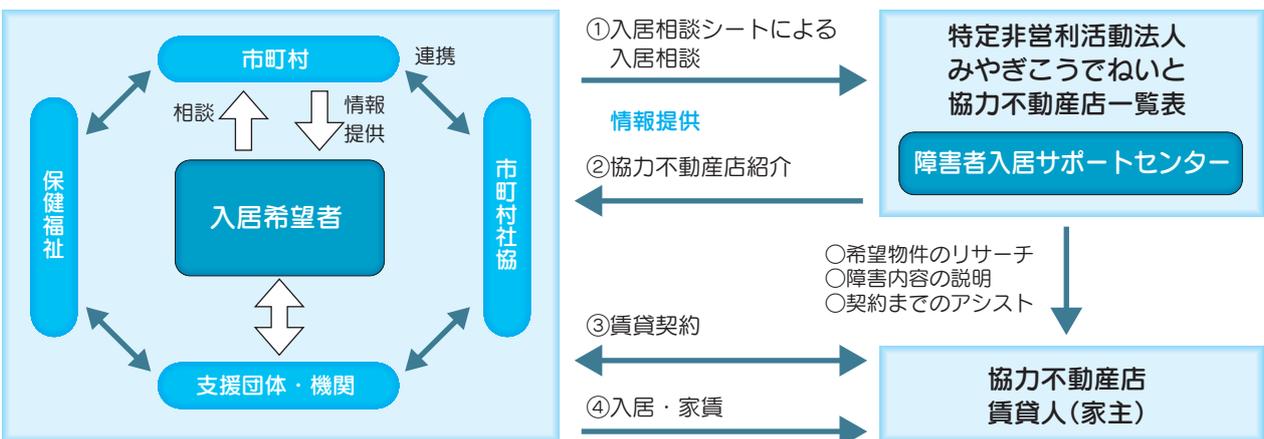
障害者住宅経営にも乗り出す

事業の広がりとともに従来の片手間仕事でも追いつかないことから、「入居サポートセンター」を開設し、入居相談シート(図1)を作成しました。

「入居を希望する方は、うちのホームページからシートを入手していただき、必要事項を記入の上で面接となります。私どもが紹介する以上責任がありますので、自活能力があるかどうかチェックさせていただきます」と齋藤さんは入居までの一連の流れを説明してくれました。

へと事業の広がりを見せています。

図2 入居支援の流れ 住宅確保支援 ～行政との連携～





ファミリアハウス八乙女の外観



八乙女は家財道具完備です。

## 障害者は地域で支える

アパートには2種類あり、グループ・ケアホームに特化したファミリアハウスと低所得者向け生活支援ホームとの兼用であるファミリアホームです。両方とも障害者が生活しやすいよう世話を配置し、安心して生活のできる家族のような共同生活を実現しています。家賃は家主との交渉で事業協力をいただき、通常の家賃の2割から4割の価格で提供してもらっているため、利用しやすい設定となっています。さらに希望すれば、月額3万円ほどで配食サービスも行っており、食事作りが苦手な人も安心です。

実際に自主運営住宅を訪問してみました。最初に訪問したのはファミリアハウス八乙女です。地下鉄で仙台駅から10分ほど郊外にある八乙女駅近く

にあるアパートです。瀟洒しょうしゃな外観、そして清潔な室内。しかもテレビ、冷蔵庫、洗濯機などの必要家財道具がすべて備え付けられており、身一つですぐに生活ができる状態になっています。

家賃が安いというので、少し構えていたのですが、齋藤さんがライフワークとして取り組んでいるだけに、その素晴らしい生活環境に驚きました。2件目はJR仙石線小鶴新田駅から徒歩5分のところにあるファミリアホーム新田です。こちらはマンション形式で、特徴はある企業の寮をそのまま借り上げていることで、生活も企業の独身寮のように寮母さんがすべて面倒を見てくれます。

共同スペースも用意されており、入居者同士の交流もでき、とかく一人で行動しがちな障害者の孤立化を防ぐ効果を果たしています。

宮城県では平成18年度から障害者自立支援法を後押しするため、障害者福祉計画をスタートさせました。平成23年度までに福祉施設入居者222

5人の15%をグループホーム等に移行させ、精神科病院入院中の1662人の中で退院可能な559人も地域生活に移行させる計画です。

こうした行政の方針もあり、「みやぎこうでねいと」の役割は益々重くなりそうです。

「障害者施設での生活というのは非常に味気ないもので



ファミリアホーム新田の共同室。ここではおやつが家賃内で食べ放題だということです。

です。自活するようになると、障害者がみるみる変わっていくのがわかります。地域住民と一緒に暮らすことで、ともに成長し理解し合える社会の実現がこれからの障害者支援の基本だと思っています」

齋藤さんは最後にこう結び、障害者を地域で暖かく迎える社会の実現を訴えました。今後の「みやぎこうでねいと」の活動が注目されます。

## DATA

### 特定非営利活動法人みやぎこうでねいと

〒980-0811

宮城県仙台市青葉区一番町2-5-12

東一中央ビル7階

TEL. 022-263-0294

FAX. 022-268-0502

URL <http://www.m-koudeneito.or.jp/index.html>